

# 言語文化教育研究学会 第5回年次大会プログラム (於 早稲田大学 早稲田キャンパス3号館)

一日目：2019年3月9日(土)

9:00 受付開始 (605 教室)				
9:30 - 9:50 開会式 (602 教室)				
10:00 - 12:00 委員企画フォーラム (602 教室)				
<p>ワールドカフェ：「コスモポリタン・シティズンシップ」の視座から実践のヒントを語り、共有する          オスラー&amp;スターキー (2018)『教師と人権教育—公正、多様性、グローバルな連帯のために』を手がかりに          ファシリテーター：南浦涼介 (東京学芸大学)、北山夕華 (大阪大学)、岩坂泰子 (広島大学)、橋崎頼子 (奈良教育大学)、川口広美 (広島大学)</p>				
12:05 - 12:45 総会 (602 教室) ※会員の皆様は必ずご参加ください (昼食持ち込み可)				
12:00 - ポスター掲示 (708・711・712・713 教室) ※掲示期間は二日目 15:20 まで。期間中は、自由に閲覧・コメント記入が可能です。				
12:45 - 13:15 昼休み				
13:15 - 16:05 口頭発表				
第1会場 (701 教室)	第2会場 (702 教室)	第3会場 (704 教室)	第4会場 (709 教室)	第5会場 (710 教室)
①13:15 - 13:45 日本社会でことばの市民となった韓国からの移住者の苦悩と幸福な生についての語り—TEMを用いたレジリエントな主体性の形成過程の分析— (中井好男：同志社大学)	①13:15 - 13:45 「ちゃんとした、きれいな英語」のイデオロギー的構築—フィリピン系スカイプ英会話をめぐって— (田嶋美砂子：茨城大学)	①13:15 - 13:45 共通点の共有から始まる国際交流—留学生と中学生の交流活動の事例研究— (米本和弘：東京医科歯科大学)	①13:15 - 13:45 1970年代のイタリアにおける複言語教育の実践—Glotto-kit (言語キット)に見られる複言語性とその狙い— (西島順子：京都大学大学院)	①13:15 - 13:45 日本語授業における協働タスク遂行時に生まれる実践の場—日本語学習者間の対話の可能性— (新田奈央：大阪観光大学)
②13:55 - 14:25 東アジアが共に生きるためのシティズンシップ教育：ABCモデルに基づいた授業実践からの考察 (森山新：お茶の水女子大学)	②13:55 - 14:25 マーケティングの視点から考察する言語教育サービスの商品化—香港の民間日本語教育機関を事例として— (瀬尾匡輝：茨城大学)	②13:55 - 14:25 ことば遊びを活用した授業実践における中学生学習者の学習活動への取り組みの分析 (真子和也：広島大学大学院)	②13:55 - 14:25 弱さを力に変えるコミュニケーション：関係性レジリエンスの観点から検討する当事者研究 (中川篤：広島大学、柳瀬陽介：広島大学、榎葉みつ子：広島大学)	②13:55 - 14:25 地域日本語教室ボランティアはどのような学びを得ているのか (平野莉江子：立命館大学大学院)

第1会場 (701 教室)	第2会場 (702 教室)	第3会場 (704 教室)	第4会場 (709 教室)	第5会場 (710 教室)
<p>③14:35 - 15:15 ラジオ語学講座が夢見た市民性—その形成と挫折 (倉館健一:慶應義塾大学)</p>	<p>③14:35 - 15:15 異なる価値観を持つ人びとが共に生きる「開かれた共生社会」の原理—アイルランドで子どもを育てる親たちの「複言語育児」を事例に— (稲垣みどり:東京国際大学、金泰明:大阪経済法科大学)</p>	<p>③14:35 - 15:15 留学生10万人計画時代における日本語教師のライフストーリー (佐藤正則:山野美容芸術短期大学、三代純平:武蔵野美術大学)</p>	<p>③14:35 - 15:15 日本語学習に意義を見出せない理由—在日ベトナム難民のケース・スタディから— (林貴哉:大阪大学)</p>	<p>③14:35 - 15:05 [オンライン発表] 「お国はどちらですか」「〇〇から来ました」で捨象されるもの—日本で働く学習者の「移動」の「個別性」— (宮本敬太:グットハーモニー協同組合、前野文康:KIJ語学院南校)</p>
<p>④15:25 - 16:05 情動レベルに働きかける市民性教育の実践に向けて—ことば・からだ・アートを融合させた難民問題へのアプローチ— (横田和子:目白大学、岩坂泰子:広島大学、岡本能里子:東京国際大学、佐藤仁美:目白大学、當銘美菜:目白大学)</p>	<p>④15:25 - 16:05 国際結婚を機に来日した女性の日本語学習とアイデンティティはどう変化したのか—6年後に語られた「続き」のストーリーから— (瀬井陽子:関西学院大学)</p>	<p>④15:25 - 16:05 実践における教師の立ち位置は何によって規定されるのか—日本語教師の語りの現象学的分析— (香月裕介:神戸学院大学)</p>	<p>④15:25 - 16:05 失礼な「どちらでもいいです」についての分析 (加藤恵梨:大手前大学、清水由貴子:聖心女子大学)</p>	<p>④15:25 - 15:55 [オンライン発表] 学生主体型活動「アンケート」に対する学習者評価の推移 (芹川佳子:ボルドー・モンテールニュ大学)</p>
<p>16:15 - 18:15 <b>フォーラム</b></p>				
<p>市民性形成のために、日本語教師が「多数派」に提案する対話教育の方法—『多文化社会で多様性を考えるワークブック』の理念と実際 (有田佳代子:敬和学園大学、新井久容:早稲田大学、志賀玲子:一橋大学、渋谷実希:一橋大学、山本冴里:山口大学)</p>	<p>語りの視聴から何が生まれるか—教師の語りの映像アーカイブズ化の試み— (牛窪隆太:関西学院大学、三代純平:武蔵野美術大学、金孝卿:早稲田大学)</p>	<p>「共に生きる社会」のための理論構築基盤としての哲学 (福島青史:早稲田大学、岩内章太郎:東京理科大学、稲垣みどり:東京国際大学、飛田勘文:早稲田大学)</p>	<p>私たちは自分の経験を言語化して何を学ぶのか—「体験の言語化」の体験から問い直す (佐野香織:早稲田大学、兵藤智佳:早稲田大学、小泉香織:早稲田大学高等学院)</p>	<p>言語教育における市民性形成の再考—演劇を用いて理念と理論の接点を探る— (飛田勘文:早稲田大学、西村由美:関西学院大学、中山由佳:早稲田大学)</p>
<p>18:30 - 20:30 <b>懇親会 (森の風 26号館 15階)</b> ※事前申し込みが必要です。</p>				

二日目：2019年3月10日（日）

9:00 受付開始 (605 教室)			
10:00 - 12:30 大会シンポジウム (501 教室)			
<p><b>市民性形成と言語文化教育 —価値観の異なる多様な人たちと共に生きるために</b></p> <p>オードリー・オスラー (リーズ大学、サウスイースト・ノルウェー大学)</p> <p>小玉重夫 (東京大学)、細川英雄 (言語文化教育研究所)</p> <p>司会：福島青史 (早稲田大学)</p>			
12:30 - 13:15 昼休み			
13:15 - 15:20 ポスター発表			
前半 (13:15 - 14:15)			
708 教室	711 教室	712 教室	713 教室
<p>A</p> <p>日本語非母語話者によるキャラクタ形成モデルとキャラクタ生成の実態の解明 (荒井美咲：東北大学)</p>	<p>A</p> <p>地域の親子サークルには、日本語教育としてどのような意義と課題があるのか—理念と活動を更新してきた10年間とこれから— (福村真紀子：早稲田大学大学院)</p>	<p>A</p> <p>「わせだ日本語サポート」実践報告—留学生のための自律学習支援の意義と課題を考える— (寅丸真澄：早稲田大学、吉田好美、大木結、守屋亮、國橋さゆる、七海美和子、迎明香、黄進文、込宮麻紀子：すべて早稲田大学)</p>	<p>A</p> <p>ビジュアル・データの可能性について (鈴木栄：東京女子大学、松崎真日：福岡大学、水戸貴久：別府溝部学園短期大学)</p>
<p>B</p> <p>外国人との会話のための予備知識を探る—ある初対面会話の振り返りから— (渡辺民江：中部大学)</p>	<p>B</p> <p>母語継承に対する親の思いのプロセス—子育てふりかえりインタビューの質的分析より (徳永あかね：神田外語大学、ゴロウィナ・クセーニヤ：東京大学、吉田千春：明治大学)</p>	<p>B</p> <p>ピア活動を主体とした聴解クラスの活動報告 (高村めぐみ：愛知大学)</p>	<p>B</p> <p>「ことばの市民塾」における場の意味—公共性と親密性のあいだ (佐藤正則：山野美容芸術短期大学、東山晃：養護学校教員)</p>

後半 (14 : 20 - 15 : 20)			
708 教室	711 教室	712 教室	713 教室
<p>C</p> <p>日本語能力に差がある集団に対する異文化理解を深めるプロジェクトワークの実践 (中尾有岐：国際交流基金、濱田典子：秋田大学)</p>	<p>C</p> <p>対話を重視した教室活動がもたらす変化から見る地域日本語教室に対する展望 (元木佳江：四国大学、矢部まゆみ：横浜国立大学)</p>	<p>C</p> <p>就業体験研修における外国人留学生の学び—インターアクションの要素に注目して— (武田誠：早稲田大学)</p>	<p>C</p> <p>英語による学位プログラムで学ぶ留学生の日本語学習動機に関する一考察 (藤原智栄美：立命館大学、大平幸：立命館大学、野々口ちとせ：城西国際大学)</p>
<p>D</p> <p>まちの人へのインタビューはむずかしい？—広島のおすすめの場所を紹介するプロジェクトワークの実践報告— (川上ゆか：広島修道大学)</p>	<p>D</p> <p>ことばの教育は何をなしうるか？—日本語教育実践「ライフストーリーインタビュー」の批判的省察による考察 (古賀和恵：早稲田大学、長嶺倫子：早稲田大学)</p>	<p>D</p> <p>「4技能」幻想からの脱却を志向する日本語教育実践—上達を望まない学習者を視野に— (萩原秀樹：インターカルト日本語学校)</p>	<p>D</p> <p>ダイナミックアセスメントとしての連句授業の可能性 (白石佳和：高岡法科大学)</p>
15 : 30 - 17 : 30 パネルディスカッション			
601 教室	602 教室	704 教室	
<p>コミュニティ間を有機的に繋ぐ人材育成を目指して—サービスマーケティング、多文化間教育、地域日本語教室での実践省察から考える市民性教育に向けての現実と課題— (北出慶子：立命館大学、遠山千佳：立命館大学、山口洋典：立命館大学、村山かなえ：立命館大学、平野莉江子：立命館大学大学院)</p>	<p>留学生のキャリア形成に日本語教師・日本語教育はどのように関わっていくのか—多様な背景をもつ日本語教師の語りから— (家根橋伸子：東亜大学、佐藤正則：山野美容芸術短期大学、寅丸真澄：早稲田大学、松本明香：東京立正短期大学)</p>	<p>「演じること」への参加はどのような学びをもたらすか—「フォーラム・シアター」参加者の語りから (宇佐美洋：東京大学、文野峯子：元・人間環境大学、岡本能里子：東京国際大学、森本郁代：関西学院大学、柳田直美：一橋大学)</p>	
17 : 30 閉会			